

V 管理・運営計画

管理・運営の基本は、来訪者が楽しく、心地よく「憩い」「体験」「学習」していけるように継続的な取り組みを行うことである。「憩い」ではさまざまな植物や小動物とふれあい、森を散策することで、快適な時を過ごせるようにする。「体験」では市民を対象にして、つくる、あそぶ、そだてる、といった自然や歴史との体験を通して、五感を養い、自然や歴史への理解を深める場をつくる。「学習」では牛頸須恵器窯跡を中心とした歴史資料の展示や窯跡の解説などを通じて、利用者の学習しやすい環境を整えるなどきめ細かい取組を行う。

管理・運営は指定管理者制度を活用するが、大切なことは整備コンセプトの継承、明確なターゲットの設定、利用者のニーズに対する敏感な対応が基本となる。

そのためには

○水準の高い施設維持とプログラムの展開

○快適な史跡地空間の維持、

○学習・イベントの場としての多様な利用

が大切で、さらに積極的な利用者との対話を通じて「また来てみたい」と思わせるリピーター対応策の充実を図っていく。

管理運営は通常、維持管理と運営管理に大別され、前者は主に施設の維持点検作業によって、空間の安全性、環境美化を追求し、後者は主に施設の利用運営により創造的な空間利用を追求する。管理運営は、初期の段階では専任スタッフ3～4名でのスタートを予定している。

1. 維持管理

維持管理は、公園施設が安全に安心して快適に利用できるように、①樹木、樹林、芝生、草花、草地等を対象とする植物管理、②施設の安全点検、検査、修繕、器具取替え、清掃等を目的とする施設管理とに大別される。それぞれの管理精度が適正に行われるようにしていく。

2. 運営計画

運営管理は利用案内、広報、広告、利用調査、利用指導、人材育成、イベント、顧客管理、防災・事故対策等に分けられる。

1) 誰にでもわかる利用運営情報発信技術の充実

広報、広告等の情報発信はIT技術に代表されるデジタル的手法と、従来の紙媒体、映像を主としたアナログ的手法に大別される。前者はホームページ、メール対応があげられるが、お年寄り等には操作が難しく、あらゆる人々に対応できるものではない。その課題を補うのが後者で、パンフレット、ポスター、ミニコミ紙、折りこみチラシ、ケーブルテレビ等を活躍していく。そして、これらを組み合わせることにより、誰にでもわかる利用運営の情報発信技術を充実していく。

2) ヒアリングやアンケートによる利用者ニーズの把握

公園生活を楽しむプログラムの充実が望まれる。季節を通じてスポーツレクリエーション、環境学習、体験活動を用意し、また資源循環への協力、自然再生貢献活動等が楽しく行えるプログ

ラムメニューの作成に取り組む。

3)多様な連携

地域、学校や老人ホーム等の連携により、学習や生きがいつくりの場として活用していけるよう企画していく。

4) 継続的な利用者のニーズの把握

来訪者に満足感を与え、リピート率を増やしていくためには、①魅力的なイベントの展開、②おもてなしの心を持つ接客、③利用者層を絞り込んだリピーター戦略の展開を行いながら、毎年度の実績評価による公園運営を進めていく。

5) 公園での事故防止

事故は、遊具や遊び場の不具合と間違った利用、危険地域への進入・転落等により起こる。その対応策として、①利用者に情報を伝える危険マップの配布やサインの整備等での対応、②危険ゾーンの侵入防止策の充実、③リスク対策のイベントや講習会の実施等を行っていく。

VI 事業計画

1. 事業計画

事業計画については、「牛頸須恵器窯跡整備活用計画書」に基づき短期、中期、長期計画で行う。短期については下表の内容で行い、本設計の対象地区となっている4つの地区と下表のゾーンとの関係は、小田浦窯跡群Ⅰ地区は史跡学習ゾーンに、石坂窯跡群Ⅲ地区は史跡散策ゾーンに、長者原窯跡群Ⅰ地区はレクリエーションゾーンに、梅頭窯跡群Ⅰ地区は広域的史跡探訪ゾーンに含まれる。

ゾーン	拠点	項目	短期整備							
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
史跡学習	小田浦窯跡群Ⅰ地区	樹木整理								
		樹木調査								
		確認調査								
		指定地外測量								
		地盤調査								
		実施設計・監理								
		工事(覆屋)								
		確認申請、覆屋								
		工事(法面保護)								
		工事(ガイダンス)								
		確認申請、ガイダンス								
		上下水道手数料								
		工事(あずまや)								
		確認申請、あずまや								
公園工事										
		買い上げ								
広域史跡探訪	梅頭窯跡群Ⅰ地区	総合案内サイン								
		レプリカ作成								
		覆い屋補修実施設計監理								
			覆屋補修							
	梅頭窯跡以外	総合案内サイン								
史跡散策	石坂窯跡群Ⅲ地区	樹木調査								
		樹木整理								
		確認調査								
		実施設計・監理(トイレ・外構)								
		確認申請								
		下水道受益者負担金								
		工事(管理棟等設置)								
		工事(体験窯設置)								
		公園工事								
レクリエーションゾーン	長者原窯跡群Ⅰ地区	樹木調査								
		樹木整理								
		確認調査								
		設計・監理								
		確認申請								
		公園工事(あずまや、園路等)								
その他	牛頸須恵器窯跡基本設計	基本設計								
		印刷製本								
	広域誘導サイン設置	調査								
		設計・監理								
		工事								
小田浦・石坂・長者原測量	地形測量・境界確定測量									

VII 事業費の算出

1・概算事業費

		工事費（千円）	備考
		<経費、消費税込>	
■小田浦窯跡群Ⅰ地区			
	測量、地盤調査、設計・監理他	35,852	
	建築工事	222,864	
	外構・屋外設備工事	193,650	
	地区 計[小計(1)+(2)+(3)]	452,366	
■梅頭窯跡群Ⅰ地区			
	設計・監理	894	
	建築工事	1,307	
	外構工事	4,550	
	地区 計	6,751	
■石坂窯跡群Ⅲ地区			
	設計・監理他	2,379	
	建築工事	6,063	
	外構、屋外設備工事	11,220	
	地区 計	19,662	
■長者原窯跡群Ⅰ地区			
	設計・監理他	277	
	外構工事	9,350	
	地区 計	9,627	
■その他			
	サイン関連	6,960	
	小田浦窯跡群Ⅰ地区 樹木調査・整理	14,000	
	石坂窯跡群Ⅲ地区 樹木調査・整理	3,800	
	長者原窯跡群Ⅰ地区 樹木調査・整理	4,800	
	平成26年度 基本設計、樹木整理他	5,490	
	境界確定測量（小田浦、石坂、長者原）	13,835	
	その他 計	48,885	
合計		537,291	

VIII 工事実施において予想される課題の整理

1. 小田浦窯跡群 I 地区

- 1) 遺構保護を前提とした工事
- 2) 斜面での安全確保
- 3) 小田浦池への工事土砂の流入防止
- 4) 工事施工に伴う周辺住民への説明と工事への理解・協力
- 5) のり面工事の適切な処理
- 6) 伐採樹木の処理

2. 梅頭窯跡群 I 地区

- 1) 建物補修工事に伴う遺構毀損の防止
- 2) レプリカの精度の確認

3. 石坂窯跡群 III 地区

- 1) 水源確保工事
- 2) 窯焚き体験施設建設のための場所及び材料の選定、工法の指導

4. 長者原窯跡群 I 地区

- 1) 眺望に配慮したあずまやの位置の選定